



全校集会以「致芳愛」を伝授!



地域の大人から学ぶことは多い。～獅子踊り～



子ども達の活躍を動画配信。
1,000回の再生回数をカウント

有難かった。

学校としては「コミセン」からの費用的な支援は、大変

ができたように感じる。

（鈴木（義））初めて、学習発表会をライブ配信し地区の文化祭でもその様子を上映するとなった時、それなりの金額がかかった。学校と「コミセン」で費用を出し合ったが目的を共有できたからこそ実現できた。

（鈴木（亮））スキー授業を見ていたら、フリマで購入したスキーを履いている子がいた。実際に、子ども達の笑顔に繋がった企画だったと実感した瞬間だった。学習発表会のライブ配信は継続的に、地域の方々に発信できれば嬉しい。学校支援ボランティアも協力してくださる方が増えた。「コミセン」からも地域住民に協力依頼していただくことは影響力がある。「コミュニティ・スクール」の1つの「型」

えてきた。そしてこの世代がいずれ致芳の中心になっていく人材なんだろうなと頼もしく感じた。その姿は、子ども達もきっと見ているはず。

（横澤）「コミセン」事業などで子ども達の姿を見てみると、仲の良い雰囲気を感じる。それは、親同士の関係性が良いからではないだろうか。親同士の関係が悪ければ、子ども達にも影響すると思う。そこも致芳の強みではないだろうか。

（平（み））将来、子ども達が、今の親達のように「致芳」を思ってくれば良いよね。

（平（直））実際、自分達が小さい頃がそうだったからこの今回のプロジェクトでもあった。

（牛澤）昔は、地域で生きることが当たり前だった。そこからの学びが今に活かしている。

（平（み））昔は、子どもと地域の大人の距離感が近かった。それが良いか悪いかはわからないが、もっと大人がやれることがあるようにも感じる。それを体現したのが今回のプロジェクトだったのではないか。長い致芳の教育の1ページを築いたと言っても過言ではない。

「コミュニティ・スクール」の先進的活動

（平（直））歴代の先輩方のおかげだと思っている。一生懸命活動する姿を見せていただいて、それを我々現役世代が受け継いでいるに過ぎない。先輩方との繋がりは、大河のように感じる。

（平（み））私は、致芳に嫁に来た立場。外から来たからこそ致芳の魅力もわかる。

（平（直））一生懸命な人は、意外と外から来た人だったりするかも（笑）

（横澤）何においても、どっぷり浸かり過ぎるとわからなくなる場合がある。新しい人の感覚などが刺激になり重要であったりする。そう言った意見を受け入れる土壌があるのも、致芳の強み。



平 みわ（聞き手）
白兔地区在住。高島町出身。
致芳小学校 PTA 会長を歴任。
現在は、旧長井小学校第一校舎の施設長や
市内各種団体の重役も担うリーダー的存在。